

コミュニティ・スクールだより

創立記念特別号 No5

創立25周年 おめでとうございます (Anniversary 25th)

平成13年(2001年)4月1日 開校

本校は西条小学校区、特に西条駅並びにプールバール周辺から通学する児童の増加により、平成13年(2001年)4月1日 市内21番目の小学校として、プールバールの西側に分離開校しました。当時の西条小学校の児童数は約1150名でした。以後年月を重ね、今年度で開校25年目を迎えています。

設立時学校を建設するにあたり、次の3つのキーワードが示されています。

- ① 学校を街にし 街を学校にする 『真・オープンスクール』
- ② 生き生き学び のびのび遊ぶ 『ゆとりとチャレンジスクール』
- ③ 自然の恵みを生かし 環境について学ぶ 『エコスクール』

21世紀の学校が子供達にとって「学びのための空間」「楽しい学校生活の場」「様々な体験活動ができる場」となるようにと願い、『新しい時代 21世紀の新しい学び舎』として創られました。

25周年を記念して、開校時前後を振り返ってみたいと思います。

■ 校訓「和」について



開校初日全教職員が集まった場で初代校長渡辺秀人先生から、校訓(和)について次のような話がありました。

本校の校訓を、学校建設の3つの理念(スクールキーワード)のもと、『和』(なごみ)の一文字にした。この校訓には、『自然との調和』『社会との協和』『世界平和』『和文化の伝承』『和を以て貴し』などの願いや思いを込めている。『和(なごみ)の心』を学校から発信し、地域や保護者と共に「和(なごみ)の気持ち」を校区一杯に醸し出していきたいと考えている。多様化していく社会を受容し、調和を保ち、心豊かに自他と共に生かす「生き方」を子供達と共に考え、地域、保護者、教職員が心を合わせ新しく開校した学校の未来を切り拓いていきたい。

■ 校章について

分離前の年、校章のデザインは公募され、結果当時の西条小教諭がデザインしたものが採用されました。校章の形には次の3つの思いが込められています。

- 西条小学校の校章に描かれている“桜の花びら”をもらっています。
- 隣接する公園内の前方後円墳(三ツ城古墳)が中央部で交差するデザインです。
- 建設時の理念3つのキーワード「真・オープンスクール」「ゆとりとチャレンジスクール」「エコスクール」から、桜の花びらが三枚となっています。西条小学校から分離した東西条小・御園宇小は花びらが五枚です。



■ 校歌について

校歌を作詞された平野祐香里さんは、広島県出身の作詞家です。中学校の合唱曲や唱歌などを多く手掛けられています。作詞をお願いした際は、何度かこの地に足を運んでいただき、三ツ城のひと・もの・こと・自然を感じていただきました。“三ツ城の丘に吹く風や夢、そして古代ロマンの物語”が表現されています。

作曲された長谷部匡俊さんは、文部科学省検定済教科書著作者として、教科書の執筆や編集に携わられている方です。小学校2年生音楽科教科書(教育芸術社出版)に掲載されている「だがつき パーティー」も長谷部匡俊さんの作品です。何度でも繰り返して歌いたくなるような親しみある旋律です。

開校後すぐに始業式、入学式、落成記念式典が予定されていました。西条小学校では3月に入ると三ツ城小へ進級する予定の児童を集め、三ツ城小校歌が歌えるよう練習をしました。

■ 思い出を大切に 友情を誓う ～ お別れ式 ～ (平成13年3月22日)

早春純白の大きな花を咲かせる『コブシ』は、「ウメ」「サクラ」と並び里山に春を告げる代表的な花木として知られています。その花言葉は、控えめで純白で清純な花を咲かせることから“信頼・友情”とされています。

春の気配を感じられるようになった平成13年3月末、分離元校の西条小学校では“別れを惜しみ、変わらない友情を誓い合う”お別れ式が行われています。式の中で、当時の西条小学校長大歳国彦先生から、西条小学校に残る児童と4月から分離校である三ツ城小学校に別れて通う児童の代表に、“友情・信頼”の意味を持つ『コブシの苗木』と記念プレートが贈られました。

その日は年度を締めくくる修了式が行われた日。友情に見送られるように、695名の児童が造った花のアーチと先生方の大きな拍手に見送られ、460名の児童が思い出の多い西条小学校を後にしました。